

奥会津だより



晩秋の野に風がわたると
夕陽を閉じ込め深紅に染まった夕テアイの花群れが揺れる
花の紅は藍色を底に沈めて
空の青を焦かれながら やがて地に還る
枯野を飾る最後の色

じいちゃんに聞く

五十嵐 美香 (平成二十一年度当時三島中学校三年)



「エンブリ」という農具で土均(なら)しをしているところ。

れを細かくし、そこに肥料をまき、水を入れ、馬の後ろに「まぐわ」という鍬をつけ、それを「アラワレ」と言ったが、それでどろどろにして平らにして、そこに、一列横隊に並んで「ジョウバン」というものを使って植えた。

何人位でやったの？

十二、三人くらいで朝早くからの田植えだった。近所の家で田植えというときは、「ゆいなし」と言ってる、じいちゃんとはあちゃんも手伝いに行った。昔は「ひやくしよ」と言ったが、今は「農業」と言う時代だ。今、すべて機械などになり、とんでもない時代になったもんだ。

※「ゆいなし」：結を返すという意味。

取材ノート 「十年前の聞き書き・その後」

Q：美香さんが中学生の時に話を聞いたじいちゃんは、どうされていますか？

美香さん：四年前に亡くなりました。九十三歳でした。ばあちゃんは先月亡くなりました。

Q：寂しくなりませんか？
中舟渡 というのはどこですか？

美香さん：西方の一番奥にある、田んぼがいっぱいあるところです。

Q：春の農作業の、この写真を選んだ理由は？

美香さん：この写真に写っているのがじいちゃん、じいちゃんもばあちゃんも自分の家のお米は自分で作っていて、私も小さい時から手伝いというか見に行ったりしていました。その頃を思い出して、この写真を選んだのかもしれない。

Q：鍬(くわ)を使ったことはありますか？

美香さん：あります。畑ですけれども…
Q：ナイフで鉛筆削りは出来ますか？
今の子どもたちには難しいみたいですが。

美香さん：出来ますよ。

Q：アラワレとかジョウバンというのは子どもの時から知っていましたか？

美香さん：いいえ、今もわからないです。
Q：じいちゃんたちの仕事を見てきて思い出すことはありますか？

美香さん：朝は早く、夕方は遅くまで大変だったろうなあ。お昼になっても、ここまで決めたなら、「終わるまでやって行くから、先にこの飯食つてろ」と言われていました。

父(豊一さん)はスポーツ好きで、子ども達と陸上をやっています。六十七歳には見えません。

Q：二年前に結婚されたんですね。きっかけは？

美香さん：中学校と高校、バレエ部だったんですが、そのバレエ部の友達の話です。

Q：子どもさんは？

美香さん：一昨年の三月に生まれました。男の子です。

Q：十年前、中学生の時にこの文章を



後ろに掛けてあるのがジョウバン

五十嵐(旧姓) 目黒 美香さん
(平成七年生 二十四歳)

書いて、今は一児のお母さん。どんな感じですか？

美香さん：こんなに早く結婚するとは思いませんでした。子どもは甘えん坊で、めっちゃカワイイです。保育園に行っていて、置いて来る時にくっついて泣いたりした時にカワイイなと思います。親になって「後ろ髪を引かれる思い」という気持ちがわかりました。

嫁ぎ先と実家では、「めごい、めごい。」と言われ、「来られる時には、いつでも来いよ。」と言われています。

※飯豊連峰の杵差(エブリサシ)岳は、早春にエンブリを持った人の形をした雪形が出現し、農事暦として親しまれてきた。

※美香さん二十二歳の時に結婚。西会津牛尾在住。美香さんの旦那さんは、金堀重機の社員。クレインのオペレーターで現在、金山町の「こぶし館」に隣接した現場に美香さんの実家から往復する日々。

写真・文責：菅 敬浩

奥会津の鳥

写真・文：新国 勇

オオハクチョウ

只見川の滝湖や只見湖では、オオハクチョウとコハクチョウが越冬する。給餌はされておらず、泥に首をつっこみ草の根を食べる。愛玩動物のように扱わず、きびしい冬をたくましく生きぬく野鳥として見守ってきたい。



サデ(稲架)掛け



刈り取った稲をサデに掛けて天日で干す風景は、秋の風物詩。

何段も横木を渡したサデに下から掛け始めて、最上段に掛けるには梯子が必要だ。太陽の光はアミノ酸と糖をしっかりと蓄えてくれる。さらに、稲を逆さに吊るすことで、稲藁の油分が米粒にまで浸透するといふ。

自然の力に委ねる昔からの方法はかなりの重労働だが、おいしい米のためには労力を惜しまない。

幼子が手をつないだような姿で、一緒に秋の陽を浴びているのは、薄紅の米粒のようなミソソバ。

奥会津巨木めぐり

写真・文：新国 勇

八総のめもとサワラ

(南会津町八総)

サワラはヒノキの仲間。生け垣によく利用される。大木というイメージはないが、これは天然記念物級の巨木。南会津町八総集落の二荒山神社に二本並んでそびえている。一本は幹周七・九m、もう一本は幹周五・四五m。樹高はどちらも三〇mを超える。この巨木で境内も狭く感じる。なじみの薄い木だが、もっと注目されてもいい。



奥会津の郷土料理

そば寒天

新そばの季節だ。蕎麦の茹で湯にそば粉を足して、寒天で固めたもの。栄養たっぷりのそば湯は、捨てるにはもったいない。冷やして切り分け、じゅうねん味噌をつけて食す。なめらかな舌触りと香りは、裁ちそばとは全く別物のおいしさがある。



奥会津の神々



虫供養

十一月十日、晩秋の三島町早戸地区では、一年間に殺めてしまった小さな生き物たちを供養するつましい行事が行われる。集落を囲む山の中には、「神々の道」と呼ばれる杣道が何本も伸びていて、深い草の中や岩の間に、如意輪観音、地藏尊、不動尊や様々な祠が点在している。「虫供養」という行事は、そんなひなびた場所にひっそりと残っている。

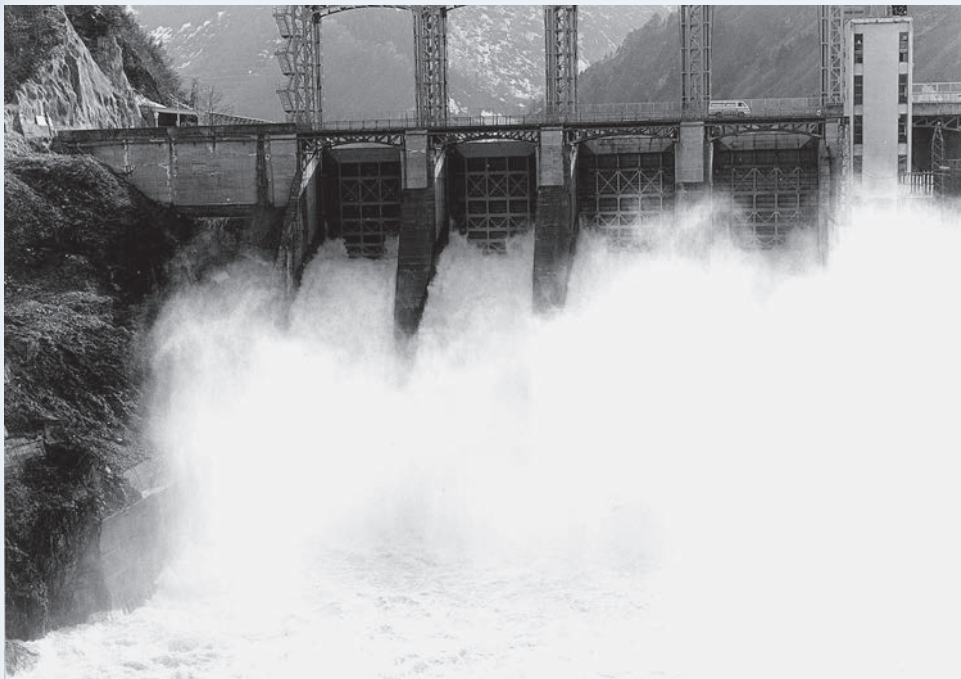
昼下がり、集落を貫く坂の下から響いてくる鉦の音を合図に、花を携えた人々が三々五々連なり、村外れの虫供養塔を目指す。供養塔を路地菊と供物で荘厳し、線香を手向け、頭を垂れて祈りを捧げる相手は、蠅や蚊や蛇やミミズ。人間の日々の営みの中で疎まれ、潰されてきた虫たちの魂が、この時その存在への感謝と懺悔を受けて神々しく昇華する。

虫たちが姿を消した晩秋の野辺で、早戸集落の人々は、殺さなければならなかった虫たちに詫言ののだという。奥会津という地域に底流する精神の核がここにある。

(写真・文：奥会津書房)

只見線

写真・文：竹島善一



昭和53年5月 金山町・本名ダム

『会津 蘇る記憶Ⅲ』より

昭和二十一年に宮下発電所の発電が開始される。この鉄道は只見川の電源開発のために敷かれた。太平洋戦争貫徹のために、戦後の復興に、電力の確保は最重要国家事業とされ、資材不足と労働力欠乏の中で工事が優先された。

宮下発電所は、第二期、第三期と工事が進められ、昭和二十七年には毎秒二百トンの水量で六万四千キロワットを発電した。片門、柳津、宮下、上田、本名、滝と、発電所の工事・完成に併せて鉄道が只見川を遡上していった。

Q方言クイズ

クイズに答えて奥会津の地場産品を買おう!

問題：次の方言の意味は何でしょう？

「ゆいなし」 ヒント：P2、「聞き書き百選」をご参照下さい。

正解者の中から抽選で5名様に、檜枝岐村の「えじっこ」をプレゼントいたします。

●応募方法：官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先：〒969-7511
福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979
奥会津書房 宛

●応募締切：2019年12月15日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。※クイズの答えは次号114号で発表いたします。



◎112号「来てけやれ」の答え：来てください

たくさんのご応募ありがとうございました!

読者コーナー



●「赤カボチャ」最高です！インパクトのある「赤い宇宙船」に思わず引き寄せられ、貴紙を手に取りました。これからも「見てよし、読んでよし。訪ねてよし」の期待を！（横浜市：K.Iさん）

●ニュウナイスズメを初めて知りました。観察していたのに頬の黒い斑に注目していませんでした。双眼鏡で観察してみます。（喜多方市：G.Eさん）

●表紙の赤カボチャに惹かれて手に取りました。天国の母の好物でした。只見のこともたくさん。母は只見出身でした。思い出話を聞いていたので、奥会津だよりに母に見てもらいたくて仏前にお供えしました。楽しく読んでくれたと思います。（会津若松市：H.Kさん）



イヌツルウメモドキの果実

●「僕より小さいお母さん」藤田暁嗣さんのインタビューを読んで「住めば都」ということを思い出しました。若者のこうした声を聴くと、明るい未来が見えてくるようでした。（新潟県村上市：T.Tさん）

●111号「じいちゃんありがとう」は特に感動しました。いい話でした。会津の人情は昭和の良い習慣でした。（郡山市：K.Hさん）

奥会津だよりの定期読者募集中

ご希望の方は事務局まで発送先(ご住所・お名前)をご連絡ください。

問い合わせ先：只見川電源流域振興協議会事務局

TEL.0241-48-5525 FAX.0241-48-5575

E-mail: webmaster@okuaiizu.net

奥会津 出展します

ふくしま大交流フェスタ 2019

福島の酒やグルメ、伝統工芸をはじめ
福島の魅力が詰まったイベント。

令和元年 12月21日(土)
11:00 ~ 17:00

東京国際フォーラム ホールE



ALL FUKUSHIMA FESTA
ふくしま大交流フェスタ2019

奥会津イベント情報

12月~1月

期日	イベント名	町村名	場所	問合せ
11月21日(木) ~2月下旬	喰丸小大銀杏イルミネーション	昭和村	交流・観光拠点施設 喰丸小	昭和村役場産業建設課観光交流係 ☎0241-57-2124
12月中旬	只見スキー場オープン	只見町	只見スキー場	会津ただみ振興公社 ☎0241-83-1733
12月21日(土)	フェアリーランドかねやまスキー場オープン	金山町	フェアリーランドかねやまスキー場	オープン前：道の駅 奥会津かねやま ☎0241-55-3334 オープン後：フェアリーランドかねやまスキー場 ☎0241-54-2022
	会津高原南郷スキー場オープン	南郷地域	会津高原南郷スキー場	会津高原南郷スキー場 ☎0241-73-2111
	会津高原高畑スキー場オープン	伊南地域	会津高原高畑スキー場	会津高原高畑スキー場 ☎0241-76-2231
	会津高原たかつえスキー場オープン	館岩地域	会津高原たかつえスキー場	会津高原リゾート(株) ☎0241-78-2220
1月1日(水)	元朝詣り	柳津町	福満虚空藏菩薩圓藏寺	柳津観光協会 ☎0241-42-2346
1月1日(水)~2日(木)	お正月歓迎イベント	只見町	只見スキー場	会津ただみ振興公社 ☎0241-83-1733
1月4日(土)	四日堂	柳津町	福満虚空藏菩薩圓藏寺	柳津観光協会 ☎0241-42-2346
1月6日(月) ~3月29日(日)	喰丸小フォトアワード入賞作品展示	昭和村	交流・観光拠点施設 喰丸小	昭和村役場産業建設課観光交流係 ☎0241-57-2124
1月7日(火)	七日堂裸詣り	柳津町	福満虚空藏菩薩圓藏寺	柳津観光協会 ☎0241-42-2346
1月中旬	国指定重要無形民俗文化財「三島のサイノカミ」	三島町	三島町各地区	三島町教育委員会 ☎0241-48-5599
	歳ノ神	伊南地域	伊南地域各地区	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
	歳ノ神	館岩地域	館岩地域各地区(前沢・湯ノ花・八総・高杖原集落)	館岩総合支所振興課企画観光係 ☎0241-78-3330
1月18日(土) ~2月1日(土)	山人・厳冬まつり	檜枝岐村	檜枝岐村内(旅館・民宿)	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
1月下旬	只見毎日杯GS大会	只見町	只見スキー場	会津ただみ振興公社 ☎0241-83-1733



発行：只見川電源流域振興協議会（柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町（南郷、伊南、館岩地域）・檜枝岐村）
発行日：11月15日発行（年6回発行）事務局：〒969-7511 福島県大沼郡三島町町民センター内奥会津振興センター TEL.0241-48-5525
http://www.okuaiizu.net ✉webmaster@okuaiizu.net 編集：奥会津書房 福島県大沼郡三島町宮下 TEL.0241-52-3580

★只見川電源流域振興協議会は、福島県只見川流域の7町村の活性化と振興を図るために活動している団体です。

この冊子は電源立地地域対策交付金の事業により作成されています。